



沼尻分場で確立した 和牛短期肥育技術について

福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場

1 はじめに

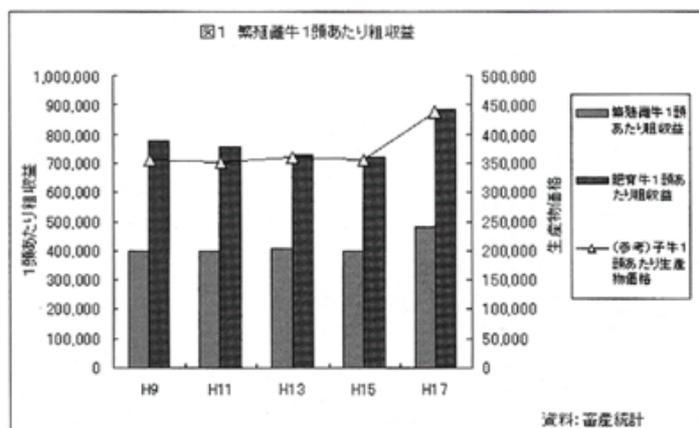
平成19年は「丁亥（ひのとい）」という年で、「丁」の「一」には昨年の「丙」から続くもの、「一」には新しい対抗の出現という意味があり、また、「亥」には起爆的なエネルギーが内包しているとのこと。言うなれば、平成19年は、現存のままで行こうとする勢力と新しい形を追っていかうとする勢力がせめぎ合い、ぶつかり合う年となるのではと予想されているようです。

さて、「現在、本県の和牛生産におけるの課題は？」と聞かれたら、私は、迷わず「繁殖雌牛の減少」と答えます。子取り用雌牛飼養頭数の推移を見ると（表1）、本県を含めて、東北各県の減少率が大きくなっています。この間の、繁殖経営の収益性は悪くなく（図1）、それでも繁殖雌牛頭数が減少しているのは、担い手の高齢化、飼養規模の小ささ等生産構造の脆弱さに起因していると考えられます。



表1 子取り雌牛飼養頭数・戸数の

		平成9年	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年	9年・17年比較(%)
福島県	頭数	40,400	38,100	32,400	30,800	29,100	-38.8
	戸数	8,340	7,150	6,140	5,480	4,820	-73.0
	1戸当たり頭数	4.8	5.3	5.3	5.6	6.0	19.8
東北	頭数	203,550	184,440	159,130	163,750	147,490	-38.0
	戸数	36,550	31,770	27,330	24,110	21,381	-70.9
	1戸当たり頭数	5.6	5.8	5.8	6.8	6.9	19.3
全国	頭数	909,600	889,300	853,700	856,200	879,300	-3.4
	戸数	117,100	102,900	90,500	80,600	73,400	-59.5
	1戸当たり頭数	7.8	8.6	9.4	10.6	12.0	35.2
北海道	頭数	63,200	71,100	73,800	75,600	76,700	17.6
	戸数	2,340	2,330	2,080	1,840	1,800	-30.0
	1戸当たり頭数	27.0	30.5	35.5	41.1	42.6	36.6
九州	頭数	448,600	440,000	439,600	444,440	463,490	3.2
	戸数	54,000	48,300	43,500	39,180	36,194	-49.2
	1戸当たり頭数	8.3	9.1	10.1	11.3	12.8	35.1



この課題の解決方法の一つに、繁殖オンリーの経営体質から肥育を取り入れた繁殖・肥育一貫経営への経営拡大、あるいは県内産子牛を肥育する地域内一貫体制を推進するなど本県和牛生産構造の転換と柔軟性の付与が上げられます。

当場では従来より放牧場での人工授精を進めてきましたが、特に近年では育種価に基づいた交配で雌牛牛群の整備を進める一方、試験研究では、牛の受精卵移植技術の安定化、繁殖・肥育一貫生産体制の推進や中山間地域の遊休地、転作田等を活用した黒毛和種育成技術の確立試験等を実施して参りました。このうち、当場で確立した和牛肥育技術について紹介させていただきます。

2 沼尻分場における和牛肥育方法

肥育方式：去勢牛27ヶ月齢出荷方式

腹づくりのために、育成期から11ヶ月齢まで良質粗飼料を不断給餌としています。

(1) 飼料給与体系

8ヶ月齢から27ヶ月齢までの飼料給与体系は下記のとおりです。

生後月齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
目標体重(kg)	260	290	320	350	380	416	452	488	518	548	572	596	620	644	668	692	716	740	758	770
粗飼料	乾草不断給与					稲ワラ制限														
稲ワラ(kg)				0.5	0.7	1.5	1.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8	0.6	0.6
乾草(kg)	4.5	5	5.5	3.7	2.8															
計	4.5	5	5.5	4.2	3.5	1.5	1.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8	0.6	0.6
濃厚飼料	体重比1.6%制限					濃厚不断給与(目安量)														
育成用(kg)	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5															
肥育用(kg)	1.0	1.1	1.6	2.1	3.5	8	9	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	8	7	7
圧べん大麦(kg)																		1	2	2
計	4.2	4.6	5.1	5.6	7	8	9	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9

(2) 給与飼料

沼尻オリジナル飼料を給与しています。

圧べん飼料を増やすことで、ルーメンバイパス炭水化物となる割合を高めています。

『沼尻指定混合飼料』

飼料成分	割合
大麦(圧べん)	24.0
(挽砕)	8.0
トウモロコシ(圧べん)	22.5
(挽砕)	7.5
一般フスマ	18.0
特殊フスマ	6.0
麦糠	7.0
大豆粕	6.0
アルファファミール	0.5
炭酸カルシウム	0.4
食塩	0.1
計	100.0

各成分	%
TDN	72.3
DCP	10.4
CP	13.3
ADF	7.3
NDF	17.9
粗繊維	5.3
Ca	0.48
P	0.46

3 肥育成績

当場で肥育牛出荷（平成15年度～17年度）は15年度18頭、16年度12頭そして17年度12頭の合計42頭でしたが、このうち景東など県有種雄牛の産子は36頭でした。

これらの枝肉成績は下表のとおりで、いわゆる4等級以上の上物率は76.2%となっています。

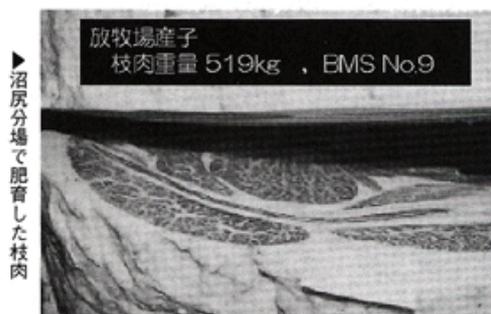
平成18年度は、第1回目の11月出荷枝肉成績では、A5が2頭、A4が1頭、A3が2頭という結果でした。

表 枝肉成績（平成15～17年 42頭平均）

（単位：kg、cm、cm、%）

	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS No.	BCS 等級	キメシマリ等級	BFS 等級	格付割合				上物率	単価	販売額
										AB5	AB4	AB3	AB2			
沼尻平均	459.8	54.6	7.9	2.5	73.8	6.6	4.2	4.0	5.0	36%	40%	14%	10%	76.2%	1,977	965,136
標準偏差	52.7	6.3	0.9	0.9	1.5	2.0	0.8	0.9	0.1						260	158,714
県平均	458.1	54.0	7.9	2.3	73.9	5.7	4.0	3.7	3.0	22%	33%	32%	14%	54.7%		
全国平均	446.0	53.2	7.5	2.3	73.7	5.3	3.8	3.7	2.9	16%	38%	35%	11%	54.0%		

※ 県平均・全国平均は、創日本格付協会平成15～17年度平均値



4 終わりに

表1で見てきたように本県の繁殖雌牛の動向は、東北地域の動向に非常に良く符合しており、これは逆に言えば、今後の本県の舵取りが東北地域の和牛経営の成り行きに大きな影響力を有しているということです。

本県の和牛振興においては、繁殖基盤を維持・拡充しながら子牛価格と枝肉価格の変動リスクを吸収し、効率の良い牛肉生産を目指した地域内一貫経営、あるいは草地等の立地条件を生かしての経営内繁殖・肥育一貫経営体を定着・育成させることが必要と考えています。

今後とも、若い後継者にとって魅力ある肉用牛経営が実現されるよう、より現場サイドに近いところで技術提案等の支援してまいる考えですので、本年もよろしくご願ひ申し上げます。

（文責 主任専門研究員兼分場長 遠藤 孝悦）